

## 昭和基地設置のライダーにより観測された極成層圏雲(PSCs)

### Lidar observation of Polar Stratospheric Clouds at Syowa Station (69S, 39E)

# 川原 琢也[1]; 堤 雅基[2]

# Takuya Kawahara[1]; Masaki Tsutsumi[2]

[1] 信州大・工; [2] 極地研

[1] Faculty of Eng., Shinshu Univ.; [2] NIPR

南極域の冬季には極夜と安定した極渦により下部成層圏の気温は-78C 以下にまで下がる。その結果生成する極成層圏雲 (PSCs) は春先にオゾン層破壊を引き起こす原因となる。PSCs に関する高度情報はライダーデータから求められる。南極昭和基地では 2000 年から 2002 年の冬季に Na Lidar 観測が行われ、MLT 領域の温度とともに PSCs の散乱光強度も計測された。我々はこの lidar data を用い、PSCs の散乱光強度とゾンデ観測による温度を比較議論する。PSCs の出現高度と温度は非常に良い一致を見せた。Rayleigh 散乱光強度と比較した場合の PSCs からのミー散乱は最大散乱比は 5 程度で 28 週目前後に最大値をとった。